

# 電気興業株式会社 2025年3月期 決算 投資家様向けオンライン説明会 質疑応答 (2025年5月20日 開催)

## <質問 1>

2025年3月期の利益が上振れしていますが、第3四半期決算の開示時点（2025年3月14日）で、通期業績の上振れは予想できなかったのでしょうか。

## 回答：

当社業績は下期偏重、特に第4四半期に売上が集中する傾向があるため、需要の前倒しや工期のズレが通期業績に大きく影響を及ぼすことがあります。2025年3月期においては、通期売上高全体のおよそ22%が3月に集中するなど、例年以上にその傾向が大きく、事業構造改革の一環として原価低減や利益確保などの取り組みは日頃より進めておりましたが、案件進捗の前倒しが通期業績の上振れにつながったと考えております。

通期業績の上振れを予想できなかった要因としては、案件の進捗管理が不十分であったことと認識しております。業績予測の改善は喫緊の課題であると考えておりますので、既に中期経営計画「DKK-Plan2028」でも開示いたしました通り、今期（100期）以降は業績のモニタリングの強化のため、新たな会議体を設けて業績予測の向上に務めてまいります。

## <質問 2>

米国の関税政策による高周波部門への影響について教えてください。

## 回答：

高周波部門の主要事業である誘導加熱装置の製造および納品については顧客の設備投資需要に、熱処理受託加工については顧客の生産台数に、それぞれ大きく影響されます。米国の関税政策による影響としては、当期（99期）第4四半期から自動車業界における設備投資実施の停止・見送りが生じております。各社の設備投資動向が回復する時期については、政策動向などに左右される部分が大きく一概に判断できかねますが、現在進行中の案件を確実に受注できるように取り組みを進めてまいります。

また、現在の設備の稼働状況にもよりますが、メンテナンスやコイル・部品交換需要の獲得に向けた積極的な提案活動も進めてまいります。なお、設備投資が再開した際には反動で大きく需要が増加することも想定されますので、顧客との綿密なコミュニケーションと消化体制の整備を進めてまいります。

同様に、熱処理受託加工に関しても自動車生産台数への影響が一部生じております。顧客により状況が異なりますので、需要動向を見定めたくうえで、取りこぼしが無いように営業活動を進めてまいります。

<質問 3>

中期経営計画「DKK-Plan2028」最終年度の営業利益が 20 億円だと ROE が 4%にしかならず、目標とする ROE5.0%超に達しないと思われそうですがいかがでしょうか。

回答：

キャピタルアロケーションによる資本政策も伴い、ROE5.0%超の水準を達成する計画となっています。中期経営計画「DKK-Plan2028」記載の利益目標としては、会社の事業成績である営業利益を設定しております。一方で、資本戦略においては資産の圧縮も含めて、ROE の改善に向けた当期純利益の向上にも努めてまいります。現在、資本政策の一つとして自己株式の取得を実施しておりますので、こちらも併せて ROE の改善に努めてまいります。

以 上